

## 小児手術・集中治療部

### 1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

部 長（兼・教授） 竹内 護  
 小児集中治療部長（准教授） 多賀 直行  
 病棟医長（病院助教） 大塚 洋司  
 医員（学内准教授） 門崎 衛  
 （講師） 片岡 功一  
 病院助教 大塚 洋司  
 永野 達也  
 中村 文人  
 山崎 彩  
 岩井 英隆  
 シニアレジデント 2名

多賀 直行  
 門崎 衛  
 大塚 洋司  
 永野 達也  
 山崎 彩  
 岩井 英隆  
 竹内 護  
 多賀 直行  
 門崎 衛  
 他6名  
 日本心臓血管麻酔学会専門医（暫定） 竹内 護  
 多賀 直行  
 門崎 衛  
 日本集中治療医学会専門医 竹内 護  
 多賀 直行  
 門崎 衛  
 日本救急医学会専門医 永野 達也  
 日本小児科学会専門医 片岡 功一  
 中村 文人  
 片岡 功一  
 日本小児循環器学会指導医 多賀 直行  
 日本周術期経食道心エコー認定医 大塚 洋司  
 岩井 英隆

### 2. 小児手術・集中治療部の特徴

小児手術・集中治療部は、2006年9月とちぎ子ども医療センターの開院とともに開設され、手術部門と小児集中治療部門の両面を持つ中央診療部門である。

手術部門は、清浄度クラス1000の手術室とクラス10000の手術室各1室の計2室で構成され、現在、小児・先天性心臓血管外科、小児外科、小児泌尿器科および小児整形外科の手術が行われている。

小児集中治療部門は、とちぎ子ども医療センター内外の重症患者を収容し、関連診療科と連携して集中治療およびその看護を行い、回復をを図ることを目的としている。小児集中治療室（PICU）は、感染症対応可能な個室ベッド2床を含む8床のユニットとして運用されている。本PICUの特色として、先天性心疾患の外科的治療を周術期管理の面から全面的に支援していることである。麻酔・集中治療医と小児・先天性心臓血管外科医、小児循環器医、成人先天性心疾患担当循環器内科医が密接に連携して、新生児から成人症例の一部まで幅広い年齢層の先天性心疾患患者の診療、周術期管理にあたっている。

また、先天性心疾患以外の外科的疾患患者の周術期管理や、内科的疾患を持つ重症患者の集中治療も、本館集中治療部および関連各専門科と密接に連携を取り、限られた病床数の中で効率よく安全に診療を提供できるように鋭意努力している。

#### ・認定施設

日本麻酔科学会認定病院  
 心臓血管麻酔専門医認定施設  
 日本集中治療医学会専門医研修施設

#### ・専門医等

（社）日本麻酔科学会指導医 竹内 護

### 3. 診療実績・クリニカルインディケーター

#### 1) 手術数（2012/1/1-12/31）

小児・先天性心臓血管外科	146例
小児外科	424例
小児泌尿器科	239例
小児整形外科	40例
合計	849例

#### 2) PICU入室患者数（2012/1/1-12/31）

小児科	115例
小児・先天性心臓血管外科	94例
小児外科	70例
小児脳神経外科	13例
移植外科	10例
小児整形外科	9例
形成外科	8例
小児耳鼻咽喉科	7例
小児泌尿器科	6例
歯科口腔外科・他	2例
合計	334例

### 3) 死亡症例

死亡症例 11例 (死亡率3.3%)

### 4) 病床利用率など (2012/1/1-12/31)

病床利用率	76.7%
病床稼働率	88.8%
平均在院日数	6.3日

## 4. 事業計画・来年の目標

手術部門では、2012年4月から小児整形外科手術の一部が当センターで行われるようになり、順調に手術数が増加している。しかし、緊急手術および時間外手術への対応などの課題が依然として解決されていない。本館中央手術部との連携を密にし、今後もより安全で効率の良い運用ができるように最大限努力していきたい。

PICU部門では、2012年4月から8床運用が開始され、順調に入室患者数が増加している。手術部門での手術数増加を反映し、外科系患者入室数が2011年よりも増加している。難易度が高く侵襲の大きい手術数も増加しており、周術期管理の面から貢献できるよう今後も努力を続けたい。病床数増加に伴い医療スタッフ数も増加したが、新スタッフの教育に重点を置き、医療の質を維持し、患者の安全と良質な医療の提供に努めたい。

新たに導入する医療システムとしては、2013年度より重症度評価スコアリングシステムの稼働を開始し、当PICUの客観的定量的治療成績の評価を行い、治療レベルのさらなる向上に結びつけたい。また、小児での体外循環式血液浄化療法の導入・開始を計画しており、周術期患者の厳密な水分管理や多臓器不全など超重症患者に対する治療の一助としたい。さらに、2012年に相次いで公表された敗血症性ショックやDICなどに対する治療ガイドラインを詳細に検討し、小児重症患者治療に応用するようにしたい。PICUネットワークを通じた多施設臨床研究への参加、あるいは超重症患者に対する特殊治療内容の全国レベルでの標準化作業に参加し、最先端医療の吸収と定着・普及に貢献できればと考えている。今後も本館集中治療部と密接に連携をとり、高度な医療を安全に提供できるよう鋭意努力していきたい。